

えいせい

第68回衛生局支部定期大会終了、代議員全員一致してすべての議案可決。

11月26日支部定期大会が開催され、11名の発言（1名文書発言）ですべての議案が可決しました。今後1年間運動方針に基づき、執行部一同奮闘します。

石原構造改革を打ち破り革新都政を実現しよう!

今回の定期大会はストライキを構えて闘った賃金確定闘争が解決をし、来年度の予算・人員要求実現の闘争もただ中で行っています。
10月7日に東京都人事委員会は、例月給、一時金ともにマイナス、平均10万5千円の年収減となる勧告を行いました。昨年に引き続きフラット化をすすめ、行政職で0%、1.5%の削減となりますが、特に衛生局支部組合員の多い医療職の最高引き下げは医療職Ⅱ表（コ・メデイ



森越支部長のあいさつ

カル）△1.6%、医療職Ⅲ表（看護職）△1.7%と2年続けてであり、これは国や他のどの都市も行っていない。人材確保のためと医師の給与は据え置くとしながら、他の医療スタッフは、人材確保のためフラット化を進めるといっているのは腑に落ちません。技術の伝達や経験が重要な職種であり、フラット化阻止のため闘いましたが覆すことはできませんでした。

都立病院を守るために たがいは引き続き地 域で運動を継続

10年以上たたかってきた都立病院統廃合問題、今年3月16日に3小児病院が閉鎖され、新病院が旧府中病

梅ヶ丘病院分会が 衛生局支部に帰属

梅ヶ丘病院分会は大会で病院支部から衛生局支部への帰属が確認され、19日の小児総合医療センター分会大会で1つになって運動していることが決定しました。今更以上「小児のこころ」の医療に対しても充実を求めて運動を強めていく必要があります。衛生局支部に来て良かったと思っていただけるよう頑張るうではありませんか。

衛生局支部2600名の総団結で
組合員の労働条件など諸要求の実現
都民・施設利用者の安心安全を確保
し都民サービスを充実しよう

院とともにPFI方式で開設されました。昨年度議会で「廃止反対」を掲げて第1党になった民主党に「廃止撤回」の期待がたかまったのですが、最終盤の裏切りで廃止されてしまいました。都民や患者・家族の方の期待が大きかっただけに大きな打撃となりました。

しかしそれぞれの地域の守る会では「小児医療を充実する会」や「再開させる会」などと名前を変えて小児医療を守るために引き続き運動を続けています。

職員が使いやすいよう 建物の改修を

小児総合医療センターは開設し、はや9ヶ月が過ぎようとしています。PFIで清水建設が建設、運営をしていますが、「建物は立派に見えますが半年もたないで病棟の流し台が水漏れし何回か修理したけれど最終的には全面交換になる。安全衛生委員会で職場めぐりをしたが、病棟の構造上個室が観察しにくいので付き添いをつけてもらわないと夜勤の管理ができない。病棟の処置用とミルク用の流し台が近づきすぎて安全衛生面で苦慮している。職員のトイレに手洗いがついていないため、2つドアを過ぎないと手洗い場が無い。」など問題を多く抱えています。



豊田代議員（小児総合医療C）

すべての患者に対応できるため研修の充実を

9月より、多摩総合医療センターがスーパージョイント期の指定を受け、小児救命センターは、どんな患者でも受け入れなくてはならない状況になっています。しかし、今年度は看護師の新人100名と経験者採用30名、異動もあり、看護師の4分の1は新しいスタッフです。スタッフの研修も充分でないのに患者は待たなしでやってくる状況もあり、大変な思いをして業務に当たっています。



前田代議員 (多摩療育園)

病棟も2交代制導入で3人夜勤になっていますが、ERからの緊急入院は夜間でも多く休憩が取れないこともあり、モニタリングで夜勤をしています。家族から夜間3人しかいないことに対する不安の声も聞かれます。

利用者の負担増は早急に解消を

利用者からは、表示が分かりにくい、駐車場の有料化やテレビの有料化、個室料が1万6千円など、患者負担が

増えています。

多摩総合の分会と共同して厚生施設の改善要求や地域の多摩キャンパスを都立の直営で守る会に参加していきたいと思っています。

小さいが頑張っています

今回出された府中療育センターの改修に伴って一緒にやるのかと思っていたら、改修案には何も書かれていませんでした。建物は古く耐久性に不安あり、改修が早急に必要です。

療育を必要としている子どもが増えているにもかかわらず、地域の施設に行けない子どもが多く、そのような子どものために多摩療育園は重要な役割を果たしています。

小さな分会ですが、きめ細やかな療育サービスを行っている多摩療育園は頑張っています。

院内保育所の早急な再開を

北療では、院内保育所が閉鎖されて数年経ちます。駒込病院の院内保育所を利用することになっていますが、利用者はありません。

院側の一方的な閉鎖で利用できず再開の要望が強くあります。院側は、看護師の採用条件として、院内保育所の再開を行うおうとしています。

利用希望者は4名おり、他にも女医の希望もあります。早期の再開に向けて、運動を行っています。

看護師2名 福祉職2名の増員は喫緊の課題

通所の医療的ケア（吸引、吸入、酸素投与、経管栄養等）



石塚代議員 (北療育医療C)

は非常に多く、経管栄養接続のため看護師が昼休みに入れないなどが生じています。

また、直接処遇業務以外にも、必要な医療器具の準備なども非常に多く、それらの付帯業務のために、常に看護師がとられ、実際に利用者に関わる職員が少なくなっています。

33名の利用者全員が、排泄・食事・更衣・移動等の日常生活動作について全介助が必要です。超重症14名、準超重症17名で、全体の90%程の利用者が濃厚な医療的ケアを必要としています。

ハイリスクの利用者には複数の職員が必要

送迎バス（6台）の添乗について、全コースに医療的ケアが必要な利用者が乗車しています。福祉職についても吸引が実施できる体制は整えているが、それだけでは対応できない利用者も多く、ハイリスクの利用者乗車コースには複数の職員が添乗せざるを得ない状況もあります。

看護師、福祉職の増員は緊急の課題です。

生協からのお知らせ

12月27日（月）お昼休み

- ☆干し柿 200g（8個～12個）
組合員500円
その他550円
- ☆キンカン 300g（13個～18個）
組合員350円
その他400円

行動日程

行動・集会など

- ★ずっと住みつけたい私たちの街首都東京集会
12月14日（火）午後6時45分
日比谷公会堂（地下鉄丸ノ内線 霞が関駅下車）
- ★クリスマス会
12月22日（水）午後6時
旧府中病院講堂・がん検診センター3階
- ★衛生局支部旗開き
1月14日（金）午後6時
第1庁舎32階北側